

種生物学会 News Letter No.9.

種生物学会 The Society for the Study of Species Biology July.10, 1993.

第24回種生物学シンポジウム

第24回種生物学シンポジウムは1993年(平成5年)1月22日(金)から1月24日(日)の3日間、新潟大学の森田さんのお世話で新潟県岩船郡黒川村胎内パークホテルで行われた。総参加者は86名で、近年には見られなかったこじんまりした会であった。第1回の赤城山ほどの熱さは感じられなかったものの、かつての富山での親密な集いが思い起こされるような雰囲気であった。会場では常時74、5名が会場に着席し、ロビーで休憩したり、野外に調査へ出かける参加者もなかった。

プレシンポジウムでは、22日の夜に北大低温研の大串隆之氏による「食葉性テントウムシの個体群生態」の講演が行われ、個体の適応度について議論された。23日の「植物における形質発現と適応機構の進化」と24日の「花の異型性の進化」のシンポジウムでは、最近活躍されている9名の方による講演があり、ストレスや形質発現の関係や戦略の選択とコストの関係が進化や適応にどのように関わるか議論された(詳細は種生物学研究18号に掲載される)。

個人発表のポスターがなかったことや会場へのアクセスの問題から、参加者が少なかったと思われるが、そんなことにめげずに参加した常連にとっては、楽しい勉強会であった。

森田さんをはじめとして、お世話に当たられた新潟大学の皆様に、あつくお礼申し上げたい。

(山口裕文)

シンポジウムⅠ 植物における形質発現と 適応機構の進化

河野昭一(京都大学理学部植物) 植物における形質
発現と適応機構の進化—その問題点と研究の展望—
工藤 洋(京都大学理学部植物) タネツケバナの表

現型可塑性と集団分化

草野友延(秋田県立農業短期大学生物工学) 植物に
おける低温誘導性遺伝子
高倍鉄子(名古屋大学農学部生化学制御研) 塩スト
レスによる遺伝子の誘導
長田敏行(東京大学理学部植物) オーキシンによる
遺伝子発現の調節

シンポジウムⅡ 花の異型性の進化

原田泰志(三重大学生物資源学部) 手取り一定の定
理と花の二型性
増田理子(東京大学教養学部生物) ツリフネソウ属
における花の二型性の進化
丸井英幹・鷺谷いづみ(筑波大学生物学系) 霞ヶ浦
におけるアサザの異型花柱性と種子繁殖
芝池博幸(京都大学理学部植物) カタバミ属植物の
異花柱性と進化

片岡基金と片岡賞

故片岡政之氏は、平成3年4月27日、交通事故により32才の若さで急逝されました。同氏はメヒシバなど雑草の生活史と集団分化に関する優れた集団生物学的研究にたずさわってこれ、数多くの論文を内外の国際誌に発表し、その将来を最も期待される研究者でした。その不慮の死は惜しみてあまるものがあります。

この度、故人のご両親より、かなえられなかったご子息の夢を種生物学会の若い方々に託したいとのご意向で、1,000万円を種生物学会へご寄付いただきました。

学会では、このご趣旨を生かすべく、片岡基金検討委員会を幹事会内に設立して、堀田満会長の下で検討し、この度以下のような決定を行いましたので、会員の皆様にお知らせいたします。

1. 名称は片岡基金とし、種生物学会の特別会計と

して扱う。

2. Plant Species Biology 誌に掲載された論文を、各年度の best paper として選び(選考は別途組織される片岡賞選考委員会にて行う。)、学会賞として表彰すると共に、副賞30万円を贈呈する。
3. 対象者は35才未満の若手研究者に限り、その国籍は問わない。
4. 運用は毎年の利子をもって当てる。
5. 受賞者の選考は1994年より行う。
(PSB 編集委員長：河野昭一)

学会記事

1992年度総会

1992年度種生物学会総会は1993年1月23日に新潟県北蒲原郡黒川村胎内パークホテルにて行なわれた。総会では以下の項目について、事務局から報告および提案があり、審議の結果承認された。

A. 事務局報告

A-1. 会務の状況

* 鹿児島と関西地域に分散している事務局の体制が整備された。

* 財政立て直しのため、滞納会費督促を送付し、滞納会費の回収に努力した。(4年以上の滞納者17名へ会長からの手紙を送付した：未納分を支払って退会した方4名、返事がなく自動退会になった方10名、その他継続)

A-2. 会員移動 (1992年12月31日現在)

	現在(昨年)	新入会	退会者	自動退会
国内				
一般会員	423名(421)	8名	15名	7名
学生会員	41名(59)	2名	1名	3名
機関会員	3件(3)			
購読	12件(10)			
海外				
一般会員	25名(26)	3名	4名	
学生会員	1名(1)	1名	1名	
購読	33件(27)			

A-3. 会誌・出版物発行状況

Plant Species Biology

Vol. 7, No. 1 1992年9月発行

Vol. 7, No. 2・3 1992年12月発行

種生物学研究 第16号 1992年9月発行

News Letter No. 8 1992年11月発行

A-4. 会長・幹事選挙実施と選挙結果報告

1991年度の総会で承認されたとおり、会長選挙と全国7地域に対応した幹事選挙を行なった。今回の幹事選挙では、移行措置として'91-92年度幹事の一部にあたる6名を留任し、新たに8名を選出した(1994年秋に実施予定の1993-94年度の幹事選挙では幹事全員が公選となる)。選挙では、1992年11月27日までに郵送による投票が行なわれた。12月4日に選挙管理委員会によって立ち会い人の監督のもとで開票集計が行なわれ、以下の様に、会長1名、幹事14名が決定した。また、庶務、会計、会計監査が会長によって指名された。

会長	堀田 満	鹿児島大学理学部
庶務	宮本 句子	鹿児島大学理学部
会計	林 一彦	大阪学院大学教養部
幹事	北海道 大原 雅	北海道大学農学部
幹事	東北 露崎 浩	秋田県立農業短期大学
幹事	東北 平塚 明	東北大学理学部
幹事	関東 益山 樹生	東京女子大学現代文化学部
幹事	関東 矢原 徹一	東京大学教養学部
幹事	関東 鷲谷いづみ	筑波大学生物学系
幹事	中部 井上 健	信州大学教養部
幹事	中部 綿野 康行	金沢大学理学部
幹事	近畿 河原 太八	京都大学農学部
幹事	近畿 小菅 桂子	神戸大学理学部
幹事	近畿 高須 英樹	和歌山大学教育学部
幹事	中国四国 榎本 敬	岡山大学 資源生物科学研究所
幹事	中国四国 小林 央往	山口大学農学部
幹事	九州沖縄 川窪 伸光	鹿児島大学教育学部

会計監査	加藤 真	京都大学教養部
会計監査	岡崎 純子	大阪教育大学

B. 審議事項

B-1. 学会への寄付

故片岡政之氏の御遺族よりの寄付については、これを受領し、「片岡基金検討委員会」を設置して会員の意見を集約し、用途案をまとめることとなった。

B-2. Plant Species Biology 名誉編集委員長

PSB 編集委員会から、Dr. Grant を Plant Species Biology の名誉編集委員長とする案が提案され、承認された。

B-3. 財政・会計

*1992年度会計報告

5 ページのとおり報告があり承認された。

*会費の前納・滞納者の問題

財政健全化のため前納制の完全化を目指す旨の報告があり、具体策として会費滞納状況を会員に知らせる方法が検討され、振込用紙への督促記入などを実施することになった。

*1993年度予算

5 ページのとおり提案があり、審議の後、原案どおり承認された。

B-4. 個体群生態学会との関係

懸案となっている個体群生態学会とのシンポジウム共催等の実現にむけ、まず生態学会における小集会等で接点を模索してはどうかとの提案があり、意見交換ののち承認された。

B-5. 次回シンポジウム開催予定

伊藤元己氏(千葉大学)を中心として、千葉の方々にお世話になることとなった。

学会庶務からのお知らせ

A. 平成5年5月、日本学術会議事務局、日本学術会議会員推薦管理事務局に対し「種生物学会」として学術研究団体の登録の申請を行ないました。

B. 千葉県立中央博物館より、平成6年2月11日・12日、同館で開催予定の「第5回千葉県立中央博物館自然誌シンポジウム、伊豆・小笠原・マリアナ島弧の自然誌(仮題)」の後援要請があり、承諾することになりました。

C. 次回シンポジウムの準備が伊藤氏(千葉大学)により進められており、以下のように予定されている。

日程: 1994年1月28日(金)から30日(日)

会場: ホテル東天光(房総、白子、九十九里浜)

計画決定後、詳細は改めて通知します。

D. 国際シンポジウム「植物個体群の維持機構と種多様性」を京都大学生態学研究センターと共催することとなった。詳細は6-8ページ(申込用紙: 末尾)をご覧ください。

会費納入のお願い

会費納入がまだの方は種生物学研究16号に綴じ込んだ振込用紙を使って納入下さい。

一般会員6,000円 学生会員4,000円です。

新入会員の手続き

入会申込書は種生物学研究の末尾に綴じ込んであります。事務局へお送り下さい。

移動届

届先不明で戻ってくる郵便が相当数有ります。住所変更や所属変更などは速やかに事務局へ連絡下さい。

移動連絡・入会申込書送付先

〒601-01 京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部植物学教室内 種生物学会

会費振込 郵便振替 京都3-21704

口座名 種生物学会

和文誌編集委員会から

現委員会で編集を引き受けてから3年目に突入しました。またしても、種生物学研究17号を予定より3カ月ほど遅れて発行しなければならなくなりました。早くから原稿を頂いた方には申し訳ないのですが、原稿が揃うのにもう少しの期間が必要のようです。

和文誌の本来の目的である総説の投稿はこれまで一編もなく、シンポジウムの原稿も歩留まりが良くない現状です。種生物学研究もニュースでも慢性的な原稿不足に対して抜本的な解決策が必要と思いつつ、これ

も委員長の努力不足と反省しています。欧文の原著論文を書かないと評価をもらえない昨今の風潮の中で、日本語の文章を作るのに力が入らないのかも知れません。しかし、伝達効率の高い和文誌は、それなりに大きな役割を担っています。これから研究を始めようとする人や分野の異なる方々に執筆者の考えや当該分野の展開を理解して頂くのに、日本語で丁寧に書かれた記事は優れたものです。シンポジウムの記事はシンポジウムに参加しなかった会員だけでなく、参加した者にとっても、不完全な理解を改めたり、問題点を再整理する上で、貴重なものになります。忙しくて、投稿をあきらめた場合でも「言いつばなし」にならないよう、随時原稿をお届け下さい。

原稿送付先 593 堺市学園町1-1

大阪府立大学農学部 山口裕文

原稿の作成について

最近のワープロソフトの進化に伴って、寄稿いただく原稿も進化しています。さまざまなフォントを使いこなした原稿は読みやすく、校閲作業も疲れずに済むようになってきました。

しかし、写植機の方の進化はやや遅れており、すべてのソフトに合う状態にはなっていません。とくに日本文の場合にはMS-DOSのテキストファイルから読み込む写植機が多く、高度なワープロソフトで指定された特殊な文字や活字は、無視されてしまいます。マックなどで書かれた原稿で、「朱」による活字の指定がないために、余分な入力や校正をすることが頻繁にあります。学名や数式などの文字指定は、必ず、赤字で明瞭をお願いします。

書評 Grass Evolution and Domestication ed. by G.P. Chapman, Cambridge Univ. Press, 1992.

イネ科植物の進化と栽培植物の栽培化に関する14名の研究者による総説集である。全体はNatural diversityとDomesticationの2部に構成され、第1部ではイネ科の分類と進化（偽小穂の進化）、光合成機構の多様化（ C_3 と C_4 植物）、S-Z自家不和合性、アポミキシスの進化が解説されている。第2部では、穀物の栽培化の起源と過程に関する3つの総説、モデル植物としてのコムギ類、トウモロコシ、イネに関する総説と、この本のまとめに当たる栽培化に関わる問題点の変化が解説されている。

イネ科植物には人類の生活基盤に重要な役割を果たしている種が多数含まれるため、多様な研究が早く進展する背景にある。イネ科に限らず、植物進化の最後の出来事である「栽培化の現象」は、人が関与した植物に普遍的に見られる。栽培化とは植物が変化することなのか、人が植物を変化させたのか、その解釈はこの分野の研究者によって微妙に異なっている。この問題に対するde WetとHarlanによる従来の手順の解説とDavies & Hillmanによるモデルとシミュレーションを使った解説によって、「栽培化」が上手に描かれている。

意識的に栽培化を進めようとする育種家にとっては第2部のモデル植物としての3作物の解説は興味を引くかも知れないが、自然史や進化を考える者にとっては、トウモロコシとイネの各論は興味を満たしてはくれない。

植物遺体からの栽培植物進化に興味のある人は、「The Origin of Agriculture: An International Perspective」ed. by C.W. Cowan & P.J. Watson, Smithsonian Institution Press, 1992. と併せて読むと良い。

(山口裕文)

1992年度収支決算報告（1992.1.1—1992.12.31）

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	2,930,747	印 刷 費	2,153,550
購 読 料	494,478	別刷り代金	185,348
バックナンバー売上金	110,040	編集諸経費	48,000
別刷り代金	64,306	通 信 費	372,836
預金利子	21,123	事 務 費	65,295
シンポジウム準備金返却	81,000	事務補助謝金	600,000
		シンポジウム補助金	100,000
		雑 費	51,930
小 計	3,701,694	小 計	3,576,959
前年度繰越金	1,716,324	次年度繰越金	1,841,059
合 計	5,418,018	合 計	5,418,018

上記の収支決算書と帳簿・預金通帳・証票類を照合した結果、1992年度の会計（決算報告）を適正と認めます。

1993年1月8日

会計監査委員 湯本 貴和
岡崎 純子

1993年度種生物学会予算

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	2,894,512	印 刷 費	3,950,000
（91,92年未納分を含む）		PSB 7 （2-3）	1,000,000
購 読 料	550,000	PSB 8 （1）	800,000
バックナンバー売上	150,000	PSB 8 （2）	800,000
別刷り代金	900,000	PSB 8 （3）	800,000
預金利子	60,000	Newsletter 9,10	50,000
		種生物学研究17	500,000
		別刷り代金	600,000
		編集諸経費	200,000
		通 信 費	450,000
		事 務 費	100,000
		事務補助謝金	800,000
		シンポジウム補助金	100,000
		雑 費	100,000
小 計	4,554,512	小 計	6,300,000
前年度繰越金	1,841,059	次年度繰越金	95,571
合 計	6,395,571	合 計	6,395,571

国際シンポジウム：植物個体群の維持機構と種多様性

INTERNATIONAL SYMPOSIUM

"Maintenance Mechanism and Diversity of Plant Species Populations"

国際シンポジウム「植物個体群の維持機構と種多様性」(International Symposium: Maintenance Mechanism and Diversity of Plant Species Populations)が、種生物学会と京都大学生態学研究センターの共催で平成5年9月6日(月)～7日(火)に京大会館で下記の通り開催されます。

個体群構造の解析に基づいて、あたらしい植物群集生態学の方角をうかがう討議が展開されます。日本からの大勢の方の参加を期待いたします。

1. 主催機関等の名称

共 催 種生物学会、京都大学生態学研究センター
協 賛 日本万国博覧会記念協会
後 援 日本生態学会、個体群生態学会

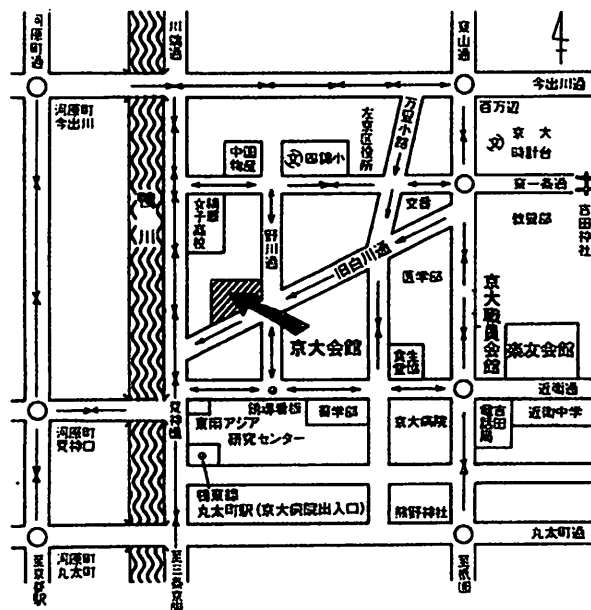
2. 開催期間 平成5年9月6日(月)～7日(火)

3. 開催場所

京大会館(京都市左京区吉田河原町15-9)

Tel: 075-751-8311 Fax: 075-761-5403

交通: 京都駅より市バスA2のりば(206)東一条下車
四条京阪より(南座向い)(201)(31)東一条下車
三条京阪南口より京都バス5番のりば
出町柳経由系統 荒神橋下車
京阪電車鴨東線丸太町下車徒歩約10分



4. 参加申し込み

参加費は一般15,000円、学生・院生7,000円で、懇親会費(9月6日)は4,000円です。別紙の参加申し込み用紙を下記へお送り下さい。

〒606-01 京都市左京区北白川追分町 京都大学理学部植物学教室河野研究室内
植物個体群シンポジウム事務局

参加費のご送金は下記の銀行口座にお振り込み下さい。

第一勧業銀行 百万遍支店／普通預金 1788162
植物個体群シンポ組織委員会 委員長 河野昭一

5. 連絡先

〒606-01 京都市左京区北白川追分町 京都大学理学部植物学教室河野研究室内
植物個体群シンポジウム事務局

Tel: 075-753-4131 Fax: 075-753-4122

または、

〒520-01 大津市下阪本 京都大学生態学研究センター 甲山隆司

Tel: 0775-79-2948 Fax: 0775-78-5792

6. プログラム

September 6 (Monday), 1993

Session 1. *Plant Population Structures and Reproductive Processes*

9:00-9:50 am **Jonathan Silvertown** and **Miguel Franco**, *Department of Biology, The Open University, U.K.*

"Comparative plant demography".

9:50-10:40 am **Toshihiko Hara**, *Department of Biology, Tokyo Metropolitan University, Japan*

"Competitive asymmetry and size-structure dynamics in plant populations".

10:40-11:00 am — **Coffee Break** —

11:00-11:50 am **Hans de Kroon**¹ and **Risto Kalliola**², *¹Department of Plant Ecology & Evolutionary Biology, University of Utrecht, The Netherlands and ²University of Turku, Finland*

"Shoot population structure and self-thinning in stands of the giant grass *Gynerium sagittatum* in floodplains of the Western Amazon"

11:50 am-1:10 pm — **Lunch** —

1:10-2:00 pm **Mike J. Hutchings**, *School of Biological Sciences, University of Sussex, U.K.*

"Efficient resource acquisition in patchy habitats by a clonal species".

2:00-2:50 pm **Dennis Whigham**¹, **John O'Neill**¹, **Jess Zimmerman**² and **Martin L. Chipollini**¹, *¹Smithsonian Environmental Research Center, U.S.A. and ²University of Puerto Rico*

"The role of tree gaps in maintaining the population structure of woodland plants".

2:50-3:40 pm **Steven E. Kelley**, *Department of Botany, Washington State University, U.S.A.*

"Differential effects of RNA virus on the fitness of sexual and asexual populations".

3:40-4:00 pm — **Coffee Break** —

4:00-4:50 pm **Spencer C.H. Barrett**, *Department of Botany, University of Toronto, Canada*

"Stochastic processes and mating-system evolution in plants".

4:50-5:40 pm **Gregory P. Cheplick**, *Department of Biology, University of Wisconsin-Whitewater, U.S.A.*

"Reproductive systems and sibling competition in plants".

6:00-8:00 pm **Reception**

September 7 (Tuesday), 1993

Session 2 *Population Interactions and Organization of Plant Communities*

9:00-9:50 am **Andrew R. Watkinson**, *School of Biological Sciences, University of East Anglia, U.K.*

"Population interactions and the determinants of population size".

9:50-10:40 am **Les G. Firbank**, *Institute of Terrestrial Ecology, Monks Wood Experimental Station, U.K.*

"The dynamics of communities of arable weeds".

10:40-11:00 am — **Coffee Break** —

11:00-11:50 am **Naoki Kachi**¹, Toshinori Okuda¹ and S.K. Yap², ¹*National Institute for Environmental Studies, Japan* and ²*Forest Research Institute of Malaysia, Malaysia*

"Seedling establishment of canopy tree species in Malaysian tropical forests".

11:50 am-1:10 pm — **Lunch** —

1:10-2:00 pm **Richard Law**, *Department of Biology, University of York, U.K.*

"Temporal and spatial processes in calcareous grassland communities".

2:00-2:50 pm **Peter L. Chesson**, *Research School of Biological Sciences, Australian National University, Australia*

"A hierarchical perspective on the maintenance of plant species diversity".

2:50-3:40 pm **Dan Cohen**, *Department of Botany, Institute of Life Science, The Hebrew University, Israel*

"Modelling coexistence of rare perennial and annual plants in temporally and spatially varying environments"

3:40-4:00 pm — **Coffee Break** —

4:00-4:50 pm **Fakhri A. Bazzaz**, *Department Organismic and Evolutionary Biology, Harvard University, U.S.A.*

"Genetic variation, phenotypic variation, ecological variation: Their relationship and maintenance".

4:50-5:40 pm **D. Lawrence Venable** and Catherine E. Pake, *Department of Ecology and Evolutionary Biology, University of Arizona, U.S.A.*

"Diversity and coexistence of Sonoran Desert annuals".

会員移動

住所変更

--

所属（名）変更

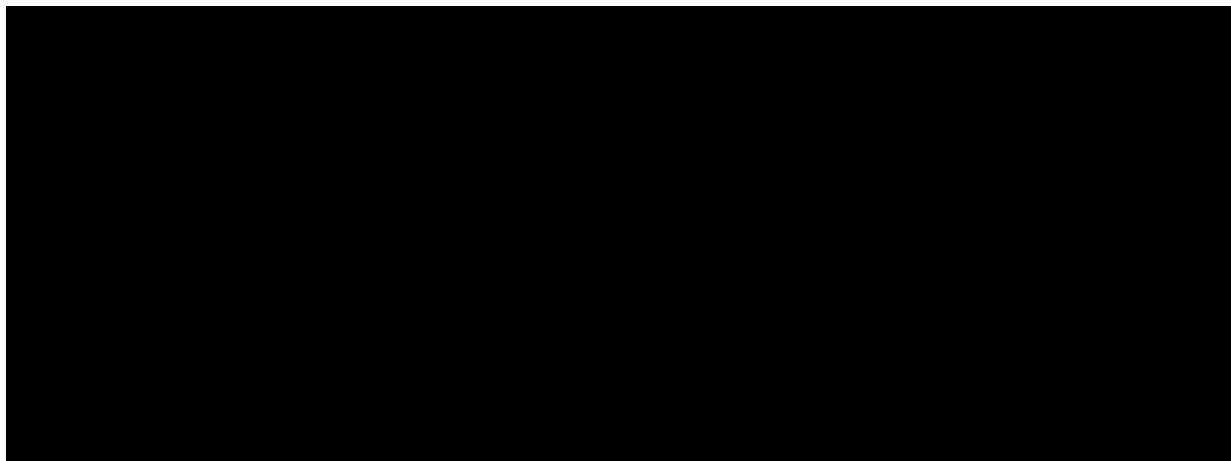
--

新入会員

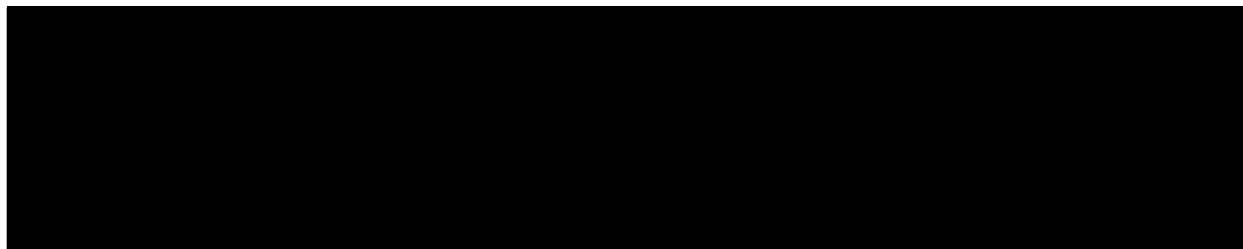
機関会員

--

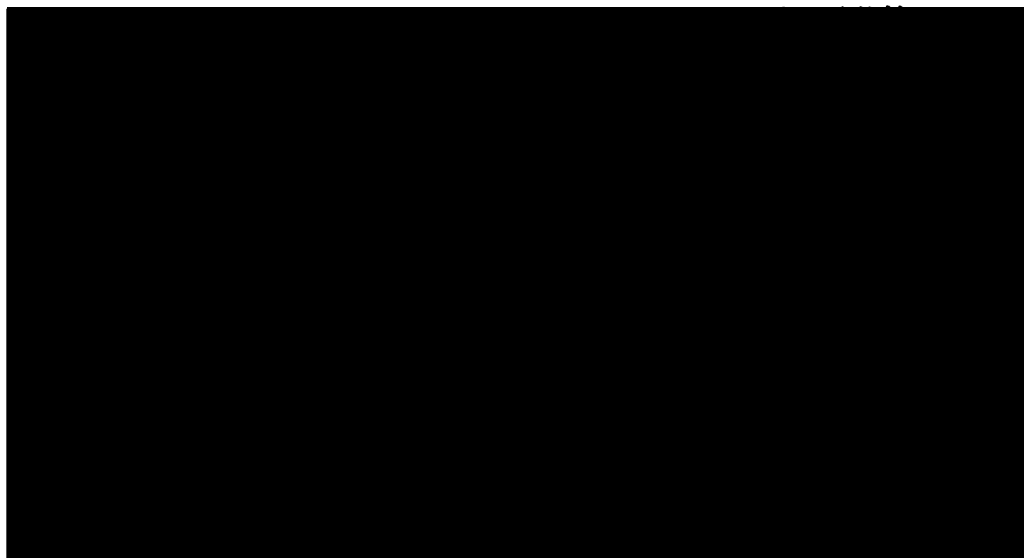
国内会員



海外会員



住所訂正（会員名簿に誤りが有りました）



退会



種生物学会ニュースレター No.9

1993年7月10日発行

編集 種生物学研究編集委員会

発行 種生物学会

国際シンポジウム：植物個体群の維持機構と種多様性

参 加 申 込 書

氏 名 (和文) _____

氏 名 (英文) _____
(Family Name) (Given Name)

所 属 (和文) _____

所 属 (英文) _____

連絡先 (和文) _____

☐ 所属 ☐ 自宅
(TEL. _____ FAX. _____)

連絡先 (英文) _____

参加費 ☐ 一般 15,000 円 ☐ 学生 7,000 円

懇親会 ☐ 出席 4,000 円 ☐ 欠席

送 金 下記銀行に合計金額 _____ 円を _____ (日付) に
振り込みました。

第一勧業銀行 百万遍支店／普通預金 1788162 植物個体群シンポ組織委員会 委員長 河野昭一

参加申し込み用紙は下記へお送り下さい。

〒606-01 京都市左京区北白川追分町 京都大学理学部植物学教室河野研究室内 植物個体群シンポジウム事務局
